

一緒につくりませんか 『支え合う・助け合うまち』清瀬

安心して楽しくすごせる 地域社会をつくるために



支え合うきよせ委員会

(清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体)

— 地域資源・ニーズ把握部会(A部会) —

《はじめに》

超高齢社会が進む中、安心して楽しくすごせる地域社会を作るため、地域の「支え合い・助け合いのシステムづくり」の取り組みが、全国各地で始まっています。清瀬市でも、「支え合うきよせ委員会」が積極的に活動を開始しました。この取り組みは、個人で活動する市民をはじめ、自治会・町内会・NPO団体、介護サービス提供企業、病院や薬局、清瀬市役所等、あらゆる分野の「知恵」と「力」を合わせる必要があります。特に、地域活動に実績のある「地域団体」等の、皆様のご協力なくしては実現することはできません。人が本来持っている「やさしさ」や「支え合い・助け合い」の気持ちを結集し、一緒に「健幸でともに支え合うまち清瀬」を作りたいと思います。今回の「意見交換会」は、その第一ステップとして実施するものです。「ざっくばらん」な意見交換をお願いします。

《意見交換会の進め方》

司会	田中副部長 or 部会委員（書記）
1. 支え合うきよせ委員会あいさつ	阿久津委員長
2. 清瀬市あいさつ	関口地域包括ケア推進課長等
3. 自己紹介	①地域団体 ②支え合うきよせ委員会 ③清瀬市
4. 趣旨・目的、資料の説明	内田部長
5. 活動の現状・課題等の報告	地域団体等 *各団体3分程度
6. 意見交換	ざっくばらんに
7. まとめ・助言	鍵和田コーディネーター、清瀬市
閉会挨拶	田中副部長 or 部会委員

◇ 高齢社会の主な状況

- ✓65歳以上の高齢化率 26.7% (3,392万人)
- ✓清瀬市は 27.7% (20692人) *26市で第3位
- ✓平均寿命は男 79才、女 86才 (健康寿命は男 70才、女 73才)
- ✓後期高齢者 12.9% (1,641万人) * 清瀬市は 14.3% (10,689人)
- ✓認知症は 462万人 (65歳以上の7人に1人) 2025年には700万人を突破?
- ✓2025年問題→団塊の世代約800万人が75歳以上(後期高齢者)に
- ★ 介護保険だけでは限界 → 地域に住む市民の力で、地域の「支え合い・助け合い」のしくみをつくる事が必要。国は「地域包括ケアシステム」を提唱。 【別記1】

◇ 今日までの主な取り組み

- ✓平成12年 介護保険制度がスタート (2000年)
- ✓平成18年 地域包括支援センターの設置 → 清瀬市は現在 4センター
- ✓平成26年 サロン活動本格的にはじまる → 現在 40カ所 (サロンマップ掲載分)
- ✓平成27年 清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体設置 *研修会等開催
- ✓平成28年 市民フォーラム開催 → 約100名。愛称「支え合うきよせ委員会」決定
生活支援コーディネーター1名配置 (第1層)
- ✓平成29年 日常生活支援総合事業 清瀬市住民主体型通所サービス (通所B) 本実施
生活支援コーディネーター3名配置 (第2層) 10月予定
- ★ 地域における「支え合い・助け合い」の活動は、個人、自治会・町内会、老人会等で自主的・個別的に行われている所もありますが、地域ぐるみで行っている所は少なく、後継者等が課題となっています。また、介護サービス事業所、医療関係、清瀬市役所との連携が一層必要となっています。

◆「支え合うきよせ委員会」とは

- 正式名称：「清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体」 【別記2、3】
- 設置目的：生活支援・介護予防サービス事業体と連携し、地域の支え合い体制づくりにより地域福祉の向上を図る。＊名称は違うが全国的に設置が進んでいます。

◆「生活支援コーディネーター」とは

- 正式名称：「清瀬市生活支援コーディネーター」 【別記4】
地域支え合い推進委員ともいう。
- 設置目的：地域の支え合い体制づくりの推進を目的として、生活支援・介護予防サービスを担う事業主体の情報を集約又は提供し、事業主体間の連携した活動及び運営に結び付けて福祉の向上を図れるようにする。

◆ 意見交換会について

一、概要 清瀬市内4モデル地域で開催（各地域包括1カ所） <別紙>

- 対象 地域団体 ➡ ①自治会・町内会 ②老人クラブ ③サロンなど
- 日時 8月～9月 90分程度（挨拶15分、説明15分、意見交換等60分）
- 場所 地域の集会場&老人いきいの家など ➡ 別途調整
- 地域団体 5～6人？ ＊参加者名簿 <別紙>
- 主催者 5人（委員長1、部会長1、副部会長、部会委員1、SC1、清瀬市1）

二、趣旨・目的 「顔合わせ・気持ち合せ、そして力合せ」

- 超高齢社会の現状、課題、取り組み等の認識を合わせる。
- 地域の「支え合い・助け合いのしくみづくり」を一緒に考える。
- 地域団体等の活動の現状・課題を把握 ➡ 可能な支援策を検討・実施する。

三、地域団体の皆様にお聞きしたいこと

- 説明した「支え合い・助け合いのしくみづくり」についての質問・意見・感想。
- 地域団体等の活動の現状・課題 ➡ 困っていること、悩み、要望等。
- 支援してほしいこと ➡ 人・物・費用・場所など、なるべく具体的に。
- ＊ 地域団体等の基本情報は <別紙> ①団体名 ②代表者 ③地域 ④人数 ⑤活動内容等

四、地域団体の皆様をお願いしたいこと

- 今後も継続し連携を強めましょう。 ➡ 連絡網作成、日常的な意見交換、相談など
- 「支え合い・助け合い」のまちづくりに、可能な範囲で知恵と力を貸してください。
- 地域の高齢者の事で心配事等や把握していることがあれば、情報提供をお願いします。

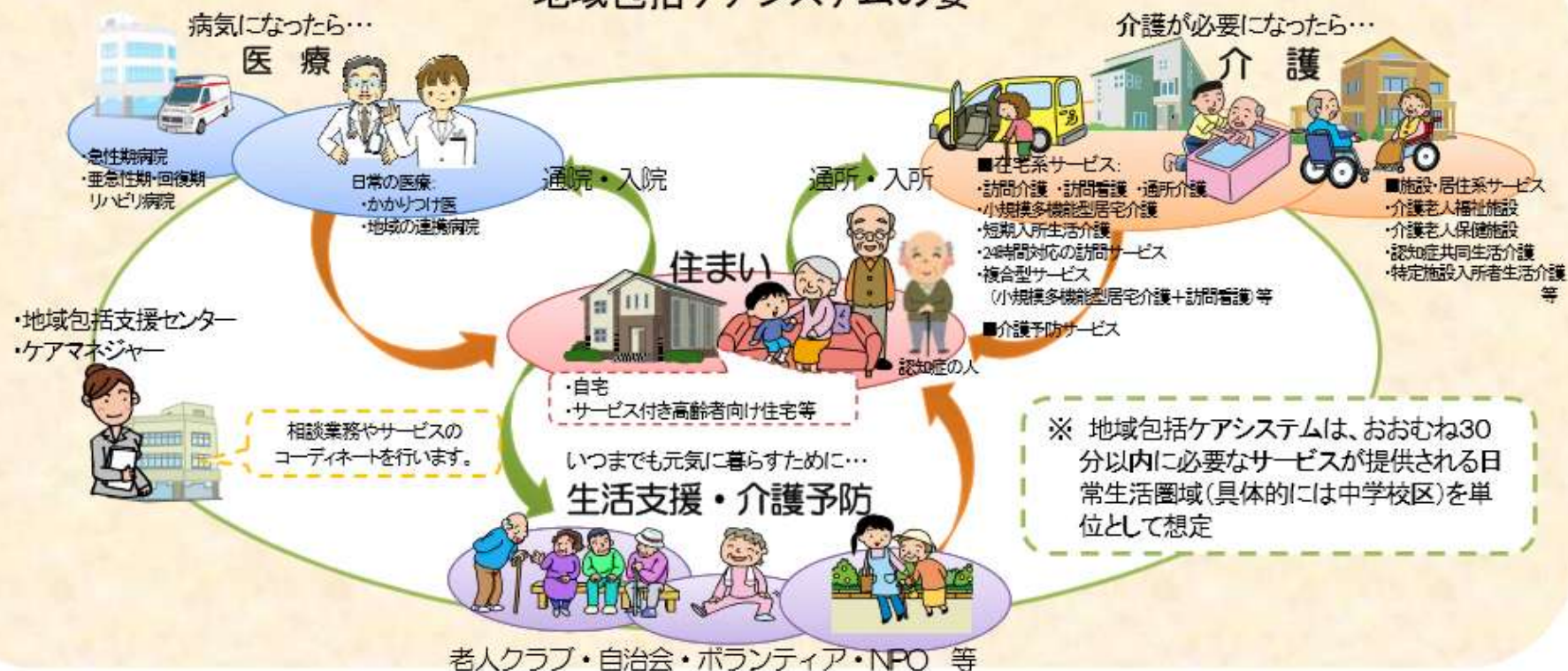
五、今後の活動

- 第1ステップ（H29） 地域団体等との意見交換会の実施 モデル地域4カ所
- 第2ステップ（H29） 出された課題の検討・回答・実施。連携の継続・強化
- 第3ステップ（H30） モデル地域の拡大

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。

地域包括ケアシステムの姿



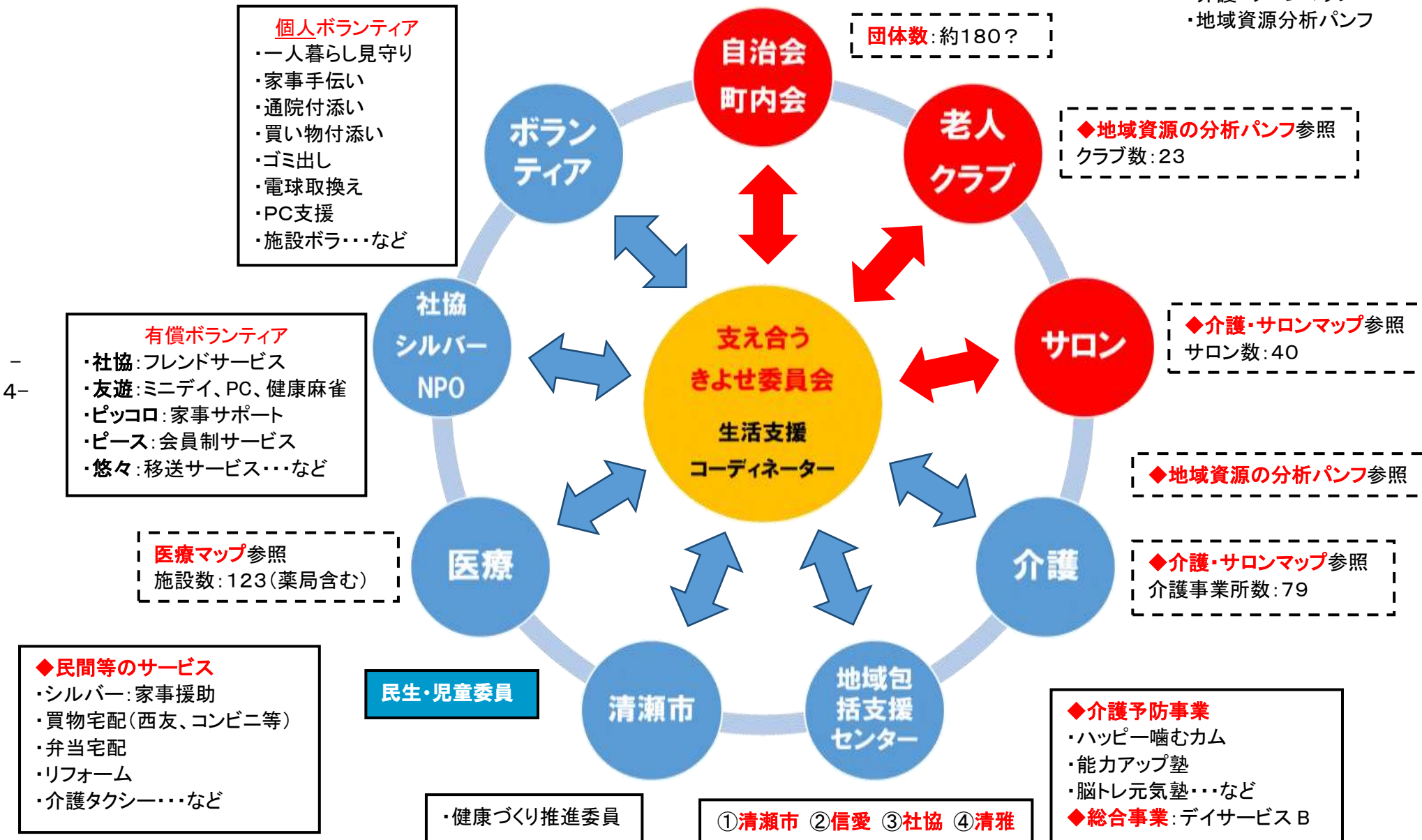
「支え合い・助け合いのまちづくり」のイメージ

●赤丸

今回の意見交換会
対象地域団体です

◆参照資料【別冊】

- ・医療マップ
- ・介護・サロンマップ
- ・地域資源分析パンフ



「支え合うきよせ委員会」とは

- **正式名称** 清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体（平成27年11月に設置）
- **愛称** 「支え合うきよせ委員会」（公募で平成28年8月に決定）
- **目的**
 - ・生活支援・介護予防サービスを担う事業体と連携を図り地域の支え合い体制づくり
 - ・事業主体間における情報共有、事業改善等の協議を活発に展開させる
 - ・地域福祉の向上を推進
- **役割**
 - （1）地域資源及び地域支援ニーズの把握
 - （2）事業主体間の情報共有及び連携強化
 - （3）生活支援コーディネーターの推薦
 - （4）地域の支え合い体制づくり
- **部会**
 - ・地域資源・ニーズ把握部会 → A部会
 - ・支え合いバックアップ部会 → B部会
- **委員** 14名

役職等	氏名	所属団体等	備考欄
委員長	阿久津 州美男	六小地区自治会連合会	A部会
副委員長	星野 孝彦	清瀬市社会福祉協議会	B部会
◇ 地域資源・ニーズ把握部会（A部会）			
部会長	内田 豊	情報労連東京福祉センター	
副部会長	田中 三和子	サロン関係者	
委員	名古屋 英幸	きよせ社協地域包括支援センター	
委員	金川 利江	きよせ信愛地域包括支援センター	
委員	小野 秀	清瀬市老人クラブ連合会	
委員	福島 康人	清瀬市シルバー人材センター	
委員	田島 通夫	清瀬市健康づくり推進委員	
◇ 支え合いバックアップ部会（B部会）			
部会長	柳原 義介	清瀬市民生・児童委員協議会	
副部会長	内野 光裕	清瀬商工会	
委員	羽田 ゆかり	きよせ清雅地域包括支援センター	
委員	村田 秀子	清悠会	
委員	近藤 礼子	サロン関係者	

● 生活支援コーディネーター

所属	氏名	備考欄
社会福祉協議会	鍵和田 卓也	第1層

● 清瀬市

役職等	氏名	備考欄
健康福祉部長	八巻 浩孝	
高齢福祉担当部長	小山 利臣	
市民生活部産業振興課長	木村 広昇	
健康推進課長	田村 昌子	
高齢支援課長	細山 克昭	
地域ケア推進課長	関口 美智子	事務局
地域ケア推進課福祉総務係長	田中 秀明	事務局
地域ケア推進課	上垣 真人	事務局
清瀬市地域包括支援センター	吉村 晶子	A部会
清瀬市地域包括支援センター	森田 憲英	B部会

「生活支援コーディネーター」とは

- **正式名称** 清瀬市生活支援コーディネーター（地域支え合い推進委員ともいう）
- **設置目的**
 - ・ 地域の支え合い体制づくりの推進
 - ・ 生活支援・介護予防サービス事業主体の情報を集約又は提供
 - ・ 事業主体間の連携した活動及び運営に結び付け福祉の向上を図る
- **主な役割**
 - (1) 地域資源及び地域支援ニーズの把握
 - (2) 地域に不足する生活支援サービス等の創出
 - (3) 生活支援サービス等の担い手の養成
 - (4) 生活支援サービス等の担い手が活動する場の確保
 - (5) 事業主体間の情報共有及び連携強化等
 - (6) 地域支援ニーズと事業主体の活動のマッチング
 - (7) その他、地域の支え合い体制づくり等に必要なこと
- **配 置**

コーディネーター	人数	所 属	配置時期	協議体
第1層	1名	社会福祉協議会	H27年11月	有
第2層（予定）	3名	各地域包括支援センター	H29年10月	検討中



阿久津委員長



鍵和田コーディネーター



内田 A 部会長



柳原 B 部会長



支え合うきよせ委員会

(清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体)

連絡/問い合わせ先

生活支援コーディネーター【担当: 鍵和田】

☎ 042-495-5333 ✉ shakyoki116@siren.ocn.ne.jp

清瀬市地域包括ケア推進課【担当: 上垣】

☎ 042-497-2056